「本山寺山森林づくりの会」活動報告(8/2)

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國(写真)

日 時:2018(平成30)年8月2日(木) 9:30~15:30

気 象:天候=晴(12時の気温:27℃)

活動エリア:44 林班い(V2 谷通りと西側のモニター調査区尾根)

活動内容:台風12号の影響把握と復旧(特に木柵とその周辺の現況チェック)

林床整備(枯損木・倒木の処理と過密な広葉樹の除伐)、里道改良の調査 など

参加者:斧田一陽、倉谷邦雄、後藤和子、武田壽夫、豊田哲也、山 國 (計6名)

<"またまた"の台風禍>

本日最大の関心事は伊勢市に上陸(7/29)し、一転、西に向かい近畿を襲った台風 12 号の影響如何?。倒木·落枝·山道の崩れ、何よりも築いたばかりの木柵と「V2 谷通り」の現況。

一方、気象条件は連日の酷暑で予報は「外出や作業は控えるように」と屋内での冷房 switch-on まで薦めてくれる有様なので、V2 谷のあとは風通しの良い尾根筋での林床整備とする。この日、最高気温は京都 38.8 $\mathbb C$ 、大阪 36.1 $\mathbb C$ 。有難いことに山は $27\mathbb C$ 。ただ、雷様がお出ましかもの予報もあり、空模様が怪しくなれば早々に退散する心算。

<取り組みと成果>

1. 木柵とその周辺の調査(V2 谷通り)

改良した木柵は期待通りの通水機能を発揮したようで、基部両岸には新たな洗堀は認められなかった。一方、左岸上流側の洗堀は進んでいた。壁面に伏流水の流出口があって、大雨の度に崩れが進むものと思われる。

→いずれ対策要。その他、下流側に新たな崩れは無いが土砂流出の痕跡を認めた。

2. 尾根の林床整備

「44 林班い」のモニタリング調査区から山頂へのこの尾根は、順次整備を進めている場所。

落枝・倒木・枯損木が散見され、中には上部が折れて落下しかねない危険木もあるし、広葉樹は幹別れなど、密生化も見られる。それらを何とか片付けて面積的には 0.1ha の範囲を整備。

- ・除伐: 危険木2本(いずれも中径木)、枯損木約10本、その他過密な広葉樹も数本
- ・枝打ち:約10本、里道の要対策区間の長サは約20mを計測。

3. 里道調査

活動地と往復する里道は山腹を削っていて狭隘な箇所がある。帰途、要対策区間を計測し、今後の改良に備えた。なお、用材は尾根の林床整備で得た処理木を近くまで運搬。

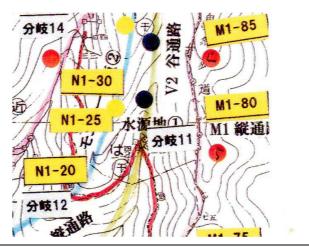
<森は活きている>

梯子状に寄生した猿の腰かけを発見。「木の養分で育つので親木を腐らせるが、それが土壌を肥やして森の輪廻を助ける(山 國)」とのこと。帰途は枯れた河床を掘って見て伏流を確認。これが「弘法の井」かと、妙に納得。 (本文 以上)

【今日も「無事故」で】



【今日の活動地】-V2 谷筋路上流と左青線の尾根



【木柵と周辺の点検】-本体とその両岸は無事?



【下流の廊下を見る】



【伏流の流出口】・画面右の4つの穴が壁面を崩す?



【上部が折れた危険木にチャレンジ】



【伐倒完了】 - 樹齢 50 年、径 37cm の大モノ



【伐倒した枯損木の玉切り】



【昼食どき】-弁当派、麺類派、好みはマチマチ



【梯子状の猿の腰かけ-四つ見える



【尾根周辺は倒木・落枝が散乱】



【スッキリさせた整備後】



【後片付けをして撤収準備】



【各自、里道修理の杭用の伐採木を担いで下山】



【崖を削ったような里道】一通り易くしたいもの



【要改良区間の計測】



【弘法の水を試す**】-地面を掘ると→→**



→【滲み出る伏流水】-「弘法の井」再現実験

